

(ユネスコスクールとしての取り組み)

今日よりいいアースへの学び

— 持続可能な社会を担う子どもを育てる —

大阪市立晴明丘小学校 玉村 秀人

1. 研究主題設定の理由

2013年、本校はユネスコスクールに認定された。

ユネスコスクールは、国際理解教育の実験的な試みを比較研究し、その調整をはかる共同体として発足した。人権と平和、環境、多文化共生と国際理解など、世界にある様々な地球規模の課題について学び、これらの課題を自らの問題として捉え、一人一人が自分にできることを考え、実践していくこと（Think Globally ,Act Locally）を身につけ、課題解決につながる価値観や行動を生み出し、持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動によって、持続可能な社会を担う子どもを育てる学校である。ESD（持続可能な開発のための教育：Education for Sustainable Development）の推進拠点として位置付けられている。

これまでの本校の取り組みは、ボランティア活動・姉妹都市との連携・ASPnet への参加・外国語活動の充実、そして国際理解教育の推進と多岐にわたっている。どの取り組みにおいても、下記のとおりユネスコスクール4つの基本分野を含めている。

1. 地球規模の問題に対するSDGsの理解
2. ESD（持続可能な開発のための教育）
3. 平和と人権の理解と推進
4. 異文化理解

国際理解教育の研究は、今年度で3年目。2015年度からの2年間は、平和と人権、環境や多文化共生、また外国語活動やSST（ソーシャルスキル・トレーニング）まで、さまざまな分野を題材にして研究を進めてきた。分野が多岐にわたったため1つの課題を学校全体で追究することは難しくなっていました。しかしその中でも、世界に目を向ける機会を幾度となく設けられたことは、児童にとっても教員にとっても非常によい機会となった。各学年の取り組みから、「普段は実感することのできない大きな問題が世界規模で今でも尚たくさん起こっている」こと、また「それらの問題と自分は決して無関係でない」ことに気付くことができた。世界規模の問題は大きすぎて、自分たちは無力だと気を落とす場面も見られたが、「Think Globally ,Act Locally」という考え方を学ぶことで子どもたちの目が変わった。自分たちは世界とつながっているからこそ、身近な行動や言葉の発信がそれらの問題解決につながることを知ることができた。

そして3年目となる今年度は、研究主題を「持続可能な社会を担う子どもを育てる ～ちがいを認め合い、豊かな人間関係を育てる力の育成～」と定め、これまでの反省をふまえて「平和と人権」にテーマを絞り進めることにした。また、昨年度までに引き続きSSTや外国語活動の充実にも努めることにした。

児童も教員もユネスコスクールの一員としての自覚を持ち、「今日よりいい明日」になるように、「今日よりいい地球（アース）」になるようにと研究に努めていくと誓った。

2. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 「持続可能な社会に向けて行動できる子どもを育てる」ための学習過程の工夫

学習過程を以下の4段階に分けて学びを進めた。

- 「出会い」のステージ … 知る・調べる段階



- 「追究」のステージ … 考える・深める段階



- 「交流」のステージ … 表現する・創る段階



- 「自立」のステージ … 行動する・発信する段階

視点② 支援と評価の在り方

- 個に応じた支援（ユニバーサルデザイン教育の観点を取り入れた支援）
- 評価基準、評価方法の工夫（アンケートや作文から、児童の変容から等）

視点③ 話し合い活動の充実

4. 研究の成果と今後の課題

（1）研究の成果

- 世界に目を向ける機会を設けることで、さまざまな出来事や問題に興味をもつ児童が増えた。中には、世界規模の問題を自分のこととして考え、できることを考えることができる児童もでてきた。
- 外国の方と話す機会を設けることで、英語を活用する機会・目的が明確化され、意欲的に外国語活動に取り組むようになった。今まではっきりと発音することが苦手だった児童が主体的に英語でのコミュニケーションにチャレンジする姿勢も見られた。
- ユネスコスクールとしての活動・国際理解教育は1単元だけの学習ではなく、教科や学年をこえての取り組みが多かったため、学校全体で考えを共有したり問題を考えたりする機会が多くできた。
- ESDカレンダーを作成し、どの学年で・いつ・どの教科で・何を教材にして国際理解教育に取り組めばいいのかの目安を定めた。学年をまたぎ、教科を横断する国際理解教育を、よりわかりやすく・継続して取り組めるようにするもので、学年や教科のつながりを視覚化できるようになった。これからも修正を繰り返し、系統的に取り組むことで質を高めていく。
- 継続してSSTに取り組むことで、児童の自尊感情が向上した。そのことは、学力・学習調査における質問紙調査結果からも明らかになった。

（2）今後の課題

- これらの活動を継続し、考えを深める意識を強く持ち続けること。
- 取り組みによって、それに適した評価方法を工夫すること。
- 児童の変容を長く記録していくこと。